

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100051		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム岡宮の憩 (ユニット1)		
所在地	静岡県沼津市岡宮753-2		
自己評価作成日	令和3年 2月 16日	評価結果市町村受理日	令3年4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和3年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事にて毎月の行事とは別に食事のレクリエーションに力を入れています。すべて手作りで1から時間をかけて、入居者様の要望にそった食事の提供をしています。ブログを活用し毎日ご利用者様の様子や活動をアップしています。感染症対策の徹底、消毒・換気・掃除・メンテナンスをこまめに行いクリーンな環境を維持しています。ホーム内すべての箇所において光触媒コーティング施行しており安心安全な環境に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

栄養管理を考えた食の提供、体調管理をしっかりした入浴、急変時や終末期における医療機関との連携等々、ケアの基本を徹底して行っている事業所である。特に今年度は看取りに対して「最期の時」というスローガンを掲げ力を入れている。エリアマネジャーを置き、法人本部が事業所を常にバックアップし、管理者や職員を支えている。職員研修等は、法人本部作成した共通テキストを各事業所職員に学習させる仕組みがあり、ケアの質を担保する点で強みとなっている。職員の福利厚生も充実していて、例えば資格取得支援や資格取得後の手当ても厚い。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念として「すべての人の笑顔」を目指して。介護のスペシャリストとしてご利用者様ファーストであることを約束しています。ご利用者様に対して「なぜ?!」の心を持ち追求し、必ず笑顔にする努力をしています。社員全員、その家族の物心を追い常に笑顔になれるように努力しています。	会社理念と併せて「接遇5原則ルール」を玄関に掲示して誰もが見えるようにしている。また、月に数回は朝礼で唱和も行っている。事業所の年度目標も作成しており、看取り時の関わり方について「最期の時」と題して取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて日常的な交流はできていない。	地区の公民館に利用者の制作した作品を展示したり、地区で行われる地域包括支援センター主催の研修会に参加していたが、コロナ禍で今年度は地域との付き合いができていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においてご家族様また関係各所の参加は制限させていただいていますが、自施設の介護職員・ケアマネ・看護師・エリアマネージャーと報告や話し合いを行い、議事録の配布、入居者様より生活上の満足度を都度伺い施設会議等で更なるサービスの向上へと繋げている。	月2回偶数月に行っている。コロナ禍で行政や家族等外部の関係者は参加していないが、本部のエリアマネージャーを含めケアマネージャーや看護師と介護職で運営推進会議を継続している。議事録は外部の関係機関と家族に郵送している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回介護相談員が来訪し管理者・ケアマネ・介護職員から入居者様の現在の様子等をお伝えさせていただき共有しています。	コロナ過であるが、月1回介護相談員の来訪を受け入れている。予防対策を万全にし、フロアには上がらず玄関先で利用者と面談を行っている。面談後は職員が内容を伺い、情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一回職員の資質向上の為の勉強会を開催。交通量の多い立地条件の為、入居者様の安全を配慮の上玄関は施錠しているが、日々の業務中での拘束については「身体拘束ゼロ」を常に念頭に置きご家族様と協力体制の下迅速且つ有効的な代替策を講じ対応している。	現在、身体拘束している人はいない。通行車両の激しい道路に事業所が面しているため、屋間も施錠をしている。職員研修に力を入れており、テーマ別の統一テキストを法人本部が作成し、送付されたテキストを用いて職員全員が学習している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一回職員の資質向上の為の勉強会を開催。事務所に虐待防止ポスターを掲示し目視し念頭に置き業務に就いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス委員会を設置し、半年に1度本部にて会議を開催し、月毎にテーマを設けユニット会議の中で集中的に情報交換を行い認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書にて説明を行い、同意を得ている。改定時には、ご家族様出席の元家族会を開催し本部より役員が赴き、説明会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に運営推進会議を開催し、入居者様及び家族様の意見も踏まえ運営に反映するように励み取り組んでいる。コロナ禍にて面会制限しているので入居者様の毎日の様子をブログで公開している。	コロナ禍により、家族は面会や運営推進会議も制限されている。管理者がほぼ毎日ブログを更新することで、本人や事業所の様子を家族に知らせている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染症対策の徹底、定時換気を行いクリーンな環境になるよう心がけています。また施設周りの環境や整理整頓をし働きやすい環境づくりを職員の意見や提案から行っています。	2ユニット合同会議を月1回、ユニット単位の会議を2か月に1回開催しており、職員は気兼ねなく意見を言っている。評価制度と併せて職員の個別面談を管理者と行い、必要に応じてエリアマネージャも加わり実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議及び施設会議を通じ、報告・連絡・相談を徹底し情報の共有を図っている。また個々に合わせた業務の振り分け、短時間勤務等の働き方の幅を広げ職場環境の改革をしている。資格取得制度の利用や福利厚生クラブの活用で向上心を持ちながらモチベーションが下がらないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の勉強会の取り組みや無資格者の資格取得や研修の斡旋を会社単位で行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて交流する機会の制限をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様要望一覧表を作成し、リーダーが月1回の聞き取り調査を行い、本人との話し合いの中で要望や本音を伺い叶えにくい要望も本人との話し合いの中で可能な限り形にできるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話にてご家族様の不安や要望などに耳を傾け、随時、導入している。協力体制を持ち良い解決策はないかを考え導き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況と家族の協力体制の度合いを把握し見極め今必要とする事柄を最優先し実施している。モニタリングし軌道に乗らない際は、居室担当者を主に都度修正を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースに合わせ、一緒に生活している家族のような温かい信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に現状報告をし歩み寄りながら互いに解決策を導き、ご本人様を共に支えてい良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの有る関係が途切れないようにホーム側より発信し架け橋となり、電話連絡が取れるように万全な体制を図っている。病院受診が有れば事前に呼びかけスケジュールが合えば可能な限り対応して頂いている。	地域の美容院を利用したり、好みのラーメン屋に足を運ぶ等を行っていたが、コロナ禍で現在は馴染みの場所への外出ができていない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにユニット内で、兼ね合いを見計らいながら最適な座席を配置し温和に肩肘を張らずに利用者同士が調和を図り、皆で支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があればいつでも受付できるよう計っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度は入居者様からの要望を集約し個々に対応しています。	普段の会話や入浴時に本人のやりたい事を聞き出している。ユニットリーダーが主になり、事業所独自の「要望シート」に毎月ごと記録してできることは実現している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と密に話し合いながら、在宅での生活習慣を敬いながら本人の希望を最優先し意向を十分に尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来る範囲内の動作は可能な限り見守り行って頂き、無理のなくADLの向上に努めている。潜在的にある自発的な意欲を無理せず引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画作成の為、居室担当を配置しユニットチームで丸となり密にディスカッションを行いながら作成しコミュニケーションノートや勤務者に確実に共有できるよう申し送りに時間をかけ反映させている。	生活の様子から居室担当者が原案を作成し、それをユニット会議で意見交換している。管理者が意見交換の内容をまとめ、ケアマネジャーが介護計画を作成している。その後で家族に説明し、同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コミュニケーションノートとIpadへの記録を事細かに行って情報共有するとユニット会議を毎月行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から孤立したりする入居者様に対し、本人の気持ち・家族の立場を調節・納得できる方法をアプローチしながら一緒に考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用は難しいが、ホーム内でも安全に配慮し楽しめることを考え支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診には可能な限り同席して頂けるようにスケジュールを調節しまた現状を逐一報告し双方で協力し合いながら良い解決策を導き出している	近隣の有床診療所を協力医療機関としている。月2回の訪問診療があり、急変時は24時間電話で相談や指示、往診を依頼できる体制になっている。月1回定期の訪問歯科も来ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に週2回健康管理と医療面での相談や助言、指示をもらい適切に対応している。また密に連絡を取り合い情報共有を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーや看護師と密に情報共有を行い良い関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方に「重度化した場合における対応にかかる指針」についての同意を入居時に頂いている。終末期のあり方について協力医療機関と家族を交え意向を尊重しながら対応している	昨年度は2名の看取りを行った。入居時に看取りの指針について説明し同意を得ている。心身機能レベルが落ちてきた段階で医師から家族に説明を行い、家族の意向を再度確認している。協力医療機関の訪問看護も利用できる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えられるよう定期的に対応方法や手順をお伝えしている。また事務所にAEDを設置し対応している。近隣住民にもAED設置施設である事を伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害等の災害時は、昼夜問わずに起こり得る為、日中は下より夜間想定避難訓練を行い来るべき際に備えている。本部と連絡網にて被害状況等の現状報告を行い情報共有している	市ハザードマップの対象地域にはなっていない。年2回夜間想定も含めて、避難訓練を実施している。事業所で発電機と3日分の水や食糧の備蓄があり、その後は本部から送られてくる手筈になっている。	防災に対して地域との連携や協力体制が未確立である。勤務している職員が少ない夜間等に災害が起きる場合も想定し、地域の協力が得られる働きかけが期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、声かけ・介助の仕方・態度について互いに職員間で確認し合い本人らしく最適な対応が図れるように支援を行っている。(Dr往診時やフロアー会議で介護用語・イニシャル・居室番号を使用している。	職員は、プライバシー保護に関しても法人作成の統一テキストを用いて学習している。職員間では、周囲の利用者に聞かれても内容がわからないような用語を使い、利用者に関する情報交換をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が、今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が抵抗なくスムーズに自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にしながら支援し、その人らしい暮らしが送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを聞き、家族の協力を得ながらなるべくお金をかけずに手持ちの物で着直し工夫しその人らしいおしゃれができるように支援している。また毎朝洗面所にて自分の思い通りの整容が出来るよう工夫し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最大限に楽しめるように毎食前に嚥下体操を行い、食欲増進・味覚アップを図っている。食材の皮むき等できることはなるべく参加していただき、一緒に携わった実感を持ち更なる食べる楽しみを倍増させている。片付けや洗濯物を干したり個々の機能面や特性に合わせて手伝っていただいています。	後片づけも含めて、調理に参加する利用者は3～4人である。法人本社で栄養摂取量を考慮したメニューを作成し、食材が送られてくる。アルブミン値や水分量のデータを取っている。また事業所独自に、利用者の要望を取り入れた食事レクリエーションに取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を細かく記載し、個々の病状・嚥下状態に合わせた食事形態(とろみ・刻み・ミキサー)提供している。往診時にアルブミン(栄養指数)を伝達し指示を得ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後には声かけ、見守りにて口腔ケアを行い、義歯使用の方は、ポリドントを使用しながら口腔内を清潔にしている。また月に一度歯科往診を受けていただき職員は歯科衛生士より助言をいただき対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの状況に応じて、声かけ・誘導・見守りを行いその方に合わせ無理なく自立に向けた支援を行っている。ADLが低下し便秘気味な入居者に対し、便意を促進するようにトイレ誘導し腹部マッサージを施行し支援している。	排泄パターンに合わせて声かけや誘導を行っている。オムツ使用者は現在ひとりである。リハビリパンツと布パンツの併用をしている人が多い。自然排便を心がけて腹部マッサージも取り入れている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するように身体を動かして頂くように声を掛けたり、定時にトイレ誘導の習慣、内服薬(下剤)の調節をし快便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体温・血圧を考慮し体調に注意しながら入浴支援を行っている。	月・木曜日の9時から15時の間を入浴時間としている。希望があれば、隣のユニットを使用して他の曜日の入浴も可能である。入浴が苦手な人には上手な声かけで誘い対応している。必ず皮膚や爪の観察も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、タイミング良く眠れるように支援している。個々の睡眠状況に応じて安眠を妨げないように時間差で起床対応する事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表の設置・薬の説明書をファイルし、瞬時に内服薬の目的や副作用、用法を振り返れるようにしている。変更した際は、すぐにデータ修正し最新版に置き替え・往診指示表を作成しケアを統一させ誤薬を防止している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のできる事・好きな事を探りながら、日々の生活の中で話題を提供し気分転換が図れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出等、制限しているが、ホーム前ベランダの環境整備をし花壇を設け気分転換を図っている。	コロナ禍で外出支援は取り止めている。ベランダに出て外気に当たったり、花壇の花を見て過ごしている。調査訪問時も庭の花壇にパンジーが植えられ、可憐な花が咲いていた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、職員や家族が不足分をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・ご本人様より依頼があった際は、プライバシーを配慮し他者の聞こえない場所にて、電話して頂ける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるレクや食事の提供。玄関に花や季節感のあるものを飾ったり空調の風が直接当たらないよう工夫している。	事業所内の共有空間は白を基調とした壁に天窓があり、明るく不快な臭いもない。エアコンの風が直接利用者に当たらないように工夫している。年間行事や法人の写真が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が、気兼ねせず腰を下ろしリラックスした優しい雰囲気の中でいつでも雑談ができるようにソファ等を配置し空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛着のあるもの(タンス)や好みの物を使用して頂き、住み慣れた環境に近い空間を提供し居心地良く安心して生活できるようにしている	居室にはエアコン、ベット、小型のチェストが備えられている。事業所は使い慣れた物を置いてもらう事を望んでいる。配線設備の関係でテレビの持ち込みはできない。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に見合った身近で出来る事を探り、声かけ、見守りしながら、無理せずに行って頂けるようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2291100051		
法人名	株式会社フロンティアの介護		
事業所名	グループホーム岡宮の憩 (ユニット2)		
所在地	静岡県沼津市岡宮753-2		
自己評価作成日	令和3年 2月 17日	評価結果市町村受理日	令和2年 月 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人静岡県介護福祉士会
所在地	静岡県静岡市葵区駿府町1-70 静岡県総合社会福祉会館4階
訪問調査日	令和2年 3月 5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

年間行事にて毎月の行事とは別に食事のレクリエーションに力を入れています。すべて手作りで1から時間をかけて、入居者様の要望にそった食事の提供をしています。ブログを活用し毎日ご利用者様の様子や活動をアップしています。感染症対策の徹底、消毒・換気・掃除・メンテナンスをこまめに行いクリーンな環境を維持しています。ホーム内すべての箇所において光触媒コーティング施行しており安心安全な環境に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社理念として「すべての人の笑顔」を目指して。介護のスペシャリストとしてご利用者様ファーストであることを約束しています。ご利用者様に対して「なぜ?!」の心を持ち追求し、必ず笑顔にする努力をしています。社員全員、その家族の物心を追い常に笑顔になれるように努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍にて日常的な交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍にて地域貢献はできていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍においてご家族様また関係各所の参加は制限させていただいていますが、自施設の介護職員・ケアマネ・看護師・エリアマネージャーと報告や話し合いを行い、議事録の配布、入居者様より生活上の満足度を都度伺い施設会議等で更なるサービスの向上へと繋げている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	月1回介護相談員が来訪し管理者・ケアマネ・介護職員から入居者様の現在の様子等をお伝えさせていただき共有しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	三か月に一回職員の資質向上の為の勉強会を開催。交通量の多い立地条件の為、入居者様の安全を配慮の上玄関は施錠しているが、日々の業務中での拘束については「身体拘束ゼロ」を常に念頭に置きご家族様と協力体制の下迅速且つ有効的な代替策を講じ対応している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	三か月に一回職員の資質向上の為の勉強会を開催。事務所内に虐待防止ポスターを掲示し目視し念頭に置き業務に就いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	コンプライアンス委員会を設置し、半年に1度本部にて会議を開催し、月毎にテーマを設けユニット会議の中で集中的に情報交換を行い認識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書にて説明を行い、同意を得ている。改定時には、ご家族様出席の元家族会を開催し本部より役員が赴き、説明会を開催している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	隔月に運営推進会議を開催し、入居者様及び家族様の意見も踏まえ運営に反映するように励み取り組んでいる。コロナ禍にて面会制限しているため入居者様の毎日の様子をブログで公開している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	感染症対策の徹底、定時換気を行いクリーンな環境になるよう心がけています。また施設周りの環境や整理整頓をし働きやすい環境づくりを職員の意見や提案から行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ユニット会議及び施設会議を通じ、報告・連絡・相談を徹底し情報の共有を図っている。また個々に合わせた業務の振り分け、短時間勤務等の働き方の幅を広げ職場環境の改革をしている。資格取得制度の利用や福利厚生クラブの活用で向上心を持ちながらモチベーションが下がらないよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月一回の勉強会の取り組みや無資格者の資格取得や研修の斡旋を会社単位で取り組んでいます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍にて交流する機会の制限をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	お客様要望一覧表を作成し、リーダーが月1回の聞き取り調査を行い、本人との話し合いの中で要望や本音を伺い叶えにくい要望も本人との話し合いの中で可能な限り形にできるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	電話にてご家族様の不安や要望などに耳を傾け、随時、導入している。協力体制を持ち良い解決策はないかを考え導き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様の状況と家族の協力体制の度合いを把握し見極め今必要とする事柄を最優先し実施している。モニタリングし軌道に乗らない際は、居室担当者を主に都度修正を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様のペースに合わせ、一緒に生活している家族のような温かい信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に現状報告をし歩み寄りながら互いに解決策を導き、ご本人様を共に支えてい良好な関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの有る関係が途切れないようにホーム側より発信し架け橋となり、電話連絡が取れるように万全な体制を図っている。病院受診が有れば事前に呼びかけスケジュールが合えば可能な限り対応して頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようにユニット内で、兼ね合いを見計らいながら最適な座席を配置し温和に肩肘を張らずに利用者同士が調和を図り、皆で支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご相談があればいつでも受付できるよう計っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	月に一度は入居者様からの要望を集約し個々に対応しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族と密に話し合いながら、在宅での生活習慣を敬いながら本人の希望を最優先し意向を十分に尊重している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分で出来る範囲内の動作は可能な限り見守り行って頂き、無理のなくADLの向上に努めている。潜在的にある自発的な意欲を無理せず引き出している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状に即した介護計画作成の為、居室担当を配置しユニットチームで一丸となり密にディスカッションを行いながら作成しコミュニケーションノートや勤務者に確実に共有できるよう申し送りに時間をかけ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	コミュニケーションノートとIpadへの記録を事細かに行って情報共有するとユニット会議を毎月行い介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族から孤立したりする入居者様に対し、本人の気持ち・家族の立場を調節・納得できる方法をアプローチしながら一緒に考えている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて地域資源の活用は難しいが、ホーム内でも安全に配慮し楽しめることを考え支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院への受診には可能な限り同席して頂けるようにスケジュールを調節しまた現状を逐一報告し双方で協力し合いながら良い解決策を導き出している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護師に週2回健康管理と医療面での相談や助言、指示をもらい適切に対応している。また密に連絡を取り合い情報共有を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関のソーシャルワーカーや看護師と密に情報共有を行い良い関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の方に「重度化した場合における対応にかかる指針」についての同意を入居時に頂いている。終末期のあり方について協力医療機関と家族を交え意向を尊重しながら対応している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時や事故発生時に備えられるよう定期的に対応方法や手順をお伝えしている。また事務所にAEDを設置し対応している。近隣住民にもAED設置施設である事を伝達している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害等の災害時は、昼夜問わずに起こり得る為、日中は下より夜間想定避難訓練を行い来るべき際に備えている。本部と連絡網にて被害状況等の現状報告を行い情報共有している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人ひとりの人格・プライバシーを尊重し、声かけ・介助の仕方・態度について互いに職員間で確認し合い本人らしく最適な対応が図れるように支援を行っている。(Dr往診時やフロア会議で介護用語・イニシャル・居室番号を使用している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様が、今何をしたいのかを聞きながら、ご本人様が抵抗なくスムーズに自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活ペースを大切にしながら支援し、その人らしい暮らしが送れるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の好みを聞き、家族の協力を得ながらなるべくお金をかけずに手持ちの物で着回し工夫しその人らしいおしゃれができるように支援している。また毎朝洗面所にて自分の思い通りの整容が出来るよう工夫し支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	最大限に楽しめるように毎食前に嚥下体操を行い、食欲増進・味覚アップを図っている。食材の皮むき等できることはなるべく参加していただき、一緒に携わった実感を持ち更なる食べる楽しみを倍增させている。片付けや洗濯物を干したり個々の機能面や特性に合わせて手伝っていただいています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事摂取量を細かく記載し、個々の病状・嚥下状態に合わせた食事形態(とろみ・刻み・ミキサー)提供している。往診時にアルブミン(栄養指数)を伝達し指示を得ている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食後には声かけ、見守りにて口腔ケアを行い、義歯使用の方は、ポリドントを使用しながら口腔内を清潔にしている。また月に一度歯科往診を受けていただき職員は歯科衛生士より助言をいただき対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの状況に応じて、声かけ・誘導・見守りを行いその方に合わせ無理なく自立に向けた支援を行っている。ADLが低下し便秘気味な入居者に対し、便意を促進するようにトイレ誘導し腹部マッサージを施行し支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘を予防するように身体を動かして頂くように声を掛けたり、定時にトイレ誘導の習慣、内服薬(下剤)の調節をし快便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体温・血圧を考慮し体調に注意しながら入浴支援を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活パターンを把握し、タイミング良く眠れるように支援している。個々の睡眠状況に応じて安眠を妨げないように時間差で起床対応する事もある		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬表の設置・薬の説明書をファイルし、瞬時に内服薬の目的や副作用、用法を振り返れるようにしている。変更した際は、すぐにデータ修正し最新版に置き替え・往診指示表を作成しケアを統一させ誤薬を防止している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人のできる事・好きな事を探りながら、日々の生活の中で話題を提供し気分転換が図れるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍にて外出等、制限しているが、ホーム前ベランダの環境整備をし花壇を設け気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様の能力に応じて、職員や家族が不足分をフォローしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族・ご本人様より依頼があった際は、プライバシーを配慮し他者の聞こえない場所にて、電話して頂ける様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のあるレクや食事の提供。玄関に花や季節感のあるものを飾ったり空調の風が直接当たらないよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様同士が、気兼ねせず腰を下ろしリラックスした優しい雰囲気の中でいつでも雑談ができるようにソファ等を配置し空間を作っている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた愛着の有るもの(タンス)や好みの物を使用して頂き、住み慣れた環境に近い空間を提供し居心地良く安心して生活できるようにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々に見合った身近で出来る事を探り、声かけ、見守りしながら、無理せずに行って頂けるようにしている。		